

A pilot study exploring the association of morphological changes with 5-HTTLPR polymorphism in OCD patients

本田, 慎一

<https://doi.org/10.15017/1931801>

出版情報 : 九州大学, 2017, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : © The Author(s) 2017. This article is distributed under the terms of the Creative Commons Attribution 4.0 International License



氏 名：本田 慎一

論文名：A pilot study exploring the association of morphological changes with 5-HTTLPR polymorphism in OCD patients

(強迫性障害患者における神経解剖学的形態変化と 5-HTTLPR 多型との予備的関連解析研究)

区分：甲

論文内容の要旨

背景：強迫性障害は、これまでの臨床学的、薬理学的研究により、その病態にセロトニン神経系の関連が示唆されてきた。構造学的な画像研究においては強迫性障害患者でいくつかの神経解剖学的な異常が見つかっている。強迫性障害の病態解明において、遺伝子と神経解剖学的な関連解析研究はあまりない。

方法：我々は 40 名の強迫性障害患者と 40 名の健常対照者との間で、セロトニントランスポーターの転写調節部位に存在する繰り返し多型である 5-HTTLPR と灰白質体積の 2 要因の分散分析を行った。

結果：二群間比較において、健常対照群に比べて患者群で、右の海馬で灰白質体積の減少を認め、左の中心前回で灰白質体積の増大を認めた。強迫性障害患者の 5-HTTLPR と右の前頭極に強い有意傾向を認めた。

結論：我々の結果は、特定の灰白質領域の神経解剖学的変化が、強迫性障害における 5-HTTLPR 多型の間表現型となり得る一つの可能性を示した。